平成 26 年度の事業報告書
平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人カレーズの会

＜目次＞

1. 平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月までの全体の振り返り ・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月までの事業別報告 ・・・・・・・・・・・・・・ 2
① 事業名: 保健衛生のインフラ整備事業
② 事業名: 教育再建への支援事業
③ 事業名: 平成 25 年度草の根無償資金協力事業
④ 事業名: 外務省日本 NGO 連携無償資金協力事業
⑤ 事業名: 日本国際協力システム JICSNGO 支援事業
⑥ 事業名: アフガニスタン復興に必要な助言と提言事業
⑦ 事業名: その他目的を達成するための事業
3. 本法人の運営を充実させるための取り組み ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

1. 平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月までの全体の振り返り

2014 年に大統領選挙が実施されたアフガニスタンでは、9 月 21 日にようやく元財務相のアシュラフ・ガニ氏が新大統領に選出されたことが発表され、共に決戦投票に臨んだ元外相のアブドラ・アブドラ氏も行政長官という新設されるポストで政権に参加することになった。新政権は挙国一致内閣としてアフガニスタンの安定化を進めるはずであったが、組閣に伴う調整が難航し、漸く 1 月に内務大臣、外務大臣、財務大臣など 8 名の閣僚が国会で承認された。2014 年末の国際治安支援部隊（ISAF）撤退は計画通りに実施され、アフガン国軍への訓練や対テロ支援を目的とする駐留米国軍も約 1 万人まで縮小した。一方で、反政府勢力タリバンの活動は活発化している。国連アフガニスタン支援ミッション（UNAMA）が 2 月 18 日に発表したところによると、2014 年の 1 年間でテロや戦闘に巻き込まれた民間人の犠牲者は 10,548 人（死者 3,699 人、負傷者 6,849 人）に上り、統計を取り始めた 2009 年以降最悪となった。

アフガニスタンでは、地方行政の中心的役割を担う州知事は直接選挙ではなく政府により任命される。組閣が遅れる中、政府不在による行政業務の停滞や国内総生産（GDP）の落ち込みなど、深刻な影響を与えている。この様なアフガニスタン情勢を受け、本会のカンダハール診療所を訪れる患者が急増している。2014 年（1 月~12 月）の患者数は対前年比で 12%増加し、45,645 人となった。12 月には診療開始以来の累計患者数が 40 万人を突破した。（2012 年 7 月の 30 万人達成から、2 年 5 カ月で 10 万人増加）

アフガニスタンでの活動を支えることが、日本における本会の活動の中心となっている。その為、自主財源強化を目的に、今年度より新たに、毎月一定額を寄付する「マンスリーサポーター」と「夏の募金」を導入した。今年度の受取会費口数は合計で 406 口／2,296,000 円、受取寄付金は総額 13,002.914 円となった。更には、「ヘルス・ポストを通じた地域医療推進事業」を一般財団法人日本国際協力システム（JICS）の NGO 支援に申請し、約 99 万円の支援金を受けることができた。

2. 平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月までの事業別報告

① 事業名: 保健衛生のインフラ整備事業

事業内容	概要	利用者数	費用(千円)
(1)カンダハール診療所での医療活動	• 診療所を運営し、無償で医療・検査・治療薬等を提供 • 一部の検査(レントゲン、心電図、超音波、その他)を低額で実施 • 保健教育の実施	• 46,667 人 • 45,342 人	事業費 • 20,240
(2)ヘルス・ポストを活用した地域医療の取り組み	• 12 箇所のヘルス・ポストで予防接種、簡単な傷の手当、急患患者の搬送等を実施 • 医薬品や消耗品の供給 • ボランティア地域保健員(24 名)の研修	51,589 人	
(3)職員招聘	• シェルシャー・レシャード アフガニスタン事務所長(滞在 5 月 23 日～6 月 7 日)		管理費 334

(1) カンダハール診療所での医療活動

(1-1) 診療患者数

診療所では、毎週土曜日から水曜日の週 5 日、午前 8 時から午後 4 時(6 月から 8 月の盛夏時期)は午前 7 時から午後 2 時)まで診察していた。しかし来診する患者が増加したことから、平成 27 年 3 月より木曜日診察を開始した。これにより、週 6 日が診察日となっている。新たに診察日となった木曜日は、主に予防接種、結核、メンタルヘルスの患者に対応している。

平成 26 年度 4 月から平成 27 年 3 月までの診察患者数は 46,667 人(1 日平均 190 人)。2014 年(1 月~12 月)の患者数は対前年比 4,839 人増え、45,645 人となり、2002 年 8 月よりの累計患者数が 12 月に 40 万人を突破した。平成 26 年度 3 月末現在の累計患者数は 413,744 人となっている。

平成 26 年度(4 月～3 月)患者数と種別

年齢分布	5 歳未満(0 歳~4 歳)		5 歳～14 歳		15 歳以上(15 歳~)		
4 月～3 月	男子	女子	男子	女子	男性	女性	診療患者数
合計	6,739	5,336	2,131	3,279	2,755	26,427	46,667

累計患者数(2002 年 8 月～2015 年 3 月)

男子(0 歳~4 歳)	55,746	13%
女子(0 歳~4 歳)	43,747	11%
男子(5 歳~14 歳)	10,170	2%
女子(5 歳~14 歳)	11,266	3%
男性(15 歳~)	45,394	11%
女性(15 歳~)	247,421	60%

平成 26 年度(4 月~3 月)　診療所での保健（公衆衛生）教育参加者数

グループ		個人		合計
男性	女性	男性	女性	
2,605	36,168	975	5,594	45,342

(1-2)　母子の健康を守る活動

当該期間に診療所では **68 件**の出産があった。本会に対しては、以前より地域住民から夜間診療を要望する声あった。今までは夜間の活動は安全面や財源面で難しいと判断していたが、費用を寄付すると申し出る現地企業が現れ、現地スタッフの総意も取り付けられた事から、環境が整い次第、2015 年より「夜間の出産」に対応する計画がある。

出産件数（平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月）

診療所内		ヘルス・ポスト		合計
出産	流産	出産	流産	
68	14	169	0 （※1）	251

（※1　ヘルス・ポストでは流産の危険がある場合、診療所に搬送しているため、流産件数はゼロとなっている。）

又、診療所内のワクチンセンター及びヘルス・ポスト内での予防接種総数は 20,648 件（幼児 17,658 件、女性 2,990 件）となった。

幼児向け予防接種件数（平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月）

	ワクチンセンター	ヘルス・ポスト	合計
BCG	1,086	132	1,218
ポリオ	4,780	696	5,476
PCV	3,923	563	4,486
混合接種	3,523	529	4,052
はしか	2,121	305	2,426
合計	15,433	2,225	17,658

女性への破傷風予防接種件数（平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月）

	ワクチンセンター	ヘルス・ポスト	合計
妊婦	852	7	859
非妊婦	2,074	57	2,131
合計	2,926	64	2,990

(1-3) 診察活動

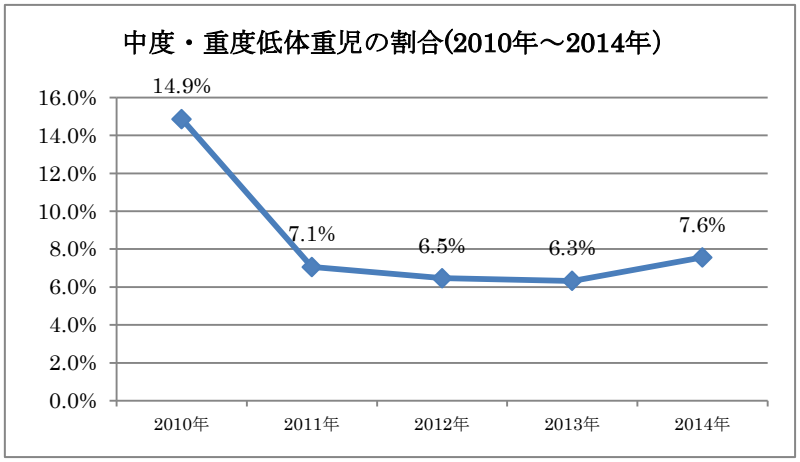
カンダハール診療所では、2003 年より月毎の症例別件数を集計し保健局に報告している。平成 26 年度の外来診察による診察総数は 62,396 件に上る。(疾病毎件数は参考資料表 6 を参照)

呼吸器系疾患	急性呼吸器疾患	耳鼻科	肺炎
消火器系疾患	急性下痢	急性赤痢	脱水症
その他感染症	尿路感染症	皮膚感染症	眼感染症
	マラリア	はしか	ウィルス性肝炎
その他	高血圧	貧血	上部消火器系疾患
	骨格筋系疾患	胃腸内寄生虫	皮膚病
	精神疾患	外傷	骨盤内炎症
	口腔歯科	微量栄養素疾患	重症の小児疾患
	その他診断した疾病		

又、2010 年からは診察に来る子供に対し、低体重検査を行っている。この検査の内、中度及び重度の低体重と判断された子供の割合を見ると、2010 年に 14.9%であったものが 2013 年までに 6.3%まで回復した。しかし 2014 年には再び上昇傾向に転じている。

子供の低体重検査(平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月)

検査数	中度低体重	重度低体重	中度・重度合計	中度・重度の割合
12,075	979	3	982	8.1%



(1-4) 検査・看護活動

カンダハール診療所内の検査室では、受診患者に対して様々な検査を行っている。検査は血液検査、血清検査、尿検査、痰検査、検便、生科学的検査などの 33 項目に上り、毎月検査別に件数を集計している。

2007 年からは同様に看護活動について種類別件数の集計をしている。集計項目は、各種の注射

やドレッシング、小児疾患の統合管理（Integrated Management of Childhood Illness=IMCI）、心電図や超音波検査、出産や流産、家族計画、妊婦カードの発行など、21 項目である。

(2) カンダハール診療所の収益

(2-1) 現地寄付金

現地企業より継続した現地寄付金を受けている。2 月まで月額 2,000 米ドルであったが、3 月からは月額 3,000 米ドルに増額された。

(2-2) 現地事業収入

増加する事業費の問題をカンダハール保健局に訴えて来ていたが、同局の理解を受け 4 月より一部の医療サービス（レントゲン、超音波、心電図、その他一部の血液検査）を有料にする許可が下りた。これは、“これらの医療サービスが、アフガニスタン政府が掲げる「保健サービス基礎パッケージ（Basic package of health services）」の枠外であることから、NGO が運営する診療所であってもこの部分は有料にして良い”という判断による。この為、4 月以降は検査に係る材料代として現地の民間クリニックの半額程度の検査料を徴収している。当該年度の現地事業収入は 626,814 円であった。

現地事業収入（平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月） （単位円）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
64,919 円	47,737	44,522	23,502	0 円	98,545	626,814
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
37,829	59,010	68,101	69,952	53,985	58,712	

(3) ヘルス・ポストを活用した地域医療の取り組み

ヘルス・ポスト利用者実績（平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月）

ポスト設置箇所	アイノ・メーナ	ブラクナ	アタド・メーナ	ピロカラチャ	ガルシャ・メーナ	アンサリ・メーナ	ハジ・アズィズ	合計
ポスト数	2	1	1	3	2→1→2	1	2	12
治療※1	1,520	768	447	2,520	1,191	773	2,254	9,473
訪問※2	1,013	565	340	1,711	839	517	1,590	6,575
衛生教育	5,299	3,106	1,962	9,412	4,359	2,691	8,712	35,541
合計	7,832	4,439	2,749	13,643	6,389	3,981	12,556	51,589

※1 治療は簡単な傷の処置や発熱等の投薬のこと。

※2 訪問では患者宅を巡回し経過や健康相談をする。

当該期間では、6 月から 9 月の 4 か月間活動を休止したヘルス・ポストが 1 箇所あったが、それも 10 月には再開し、現在 12 のヘルス・ポストを所轄している。ヘルス・ポストの利用者総数は、合計で 51,589 人。一部のヘルス・ポストでは、産婆の経験があるボランティア地域保健員に訓練を施し、ヘル

ス・ポスト内や在宅でお産の介助を手掛けているが、当該期間で実施された出産は **169 件**であった。

(4) 現地職員招聘とアフガニスタン視察

(4-1) 現地職員の招聘

定期総会及び第 1 回理事会に合わせシェルシャー・レシャード アフガニスタン事務所長が来日（日本滞在期間：5 月 23 日～6 月 7 日）。静岡、浜松、大阪での現地報告会を始め、外務省（中東第二課、国際協力局アフガニスタン支援室、民間援助連携室）や日本国際ボランティアセンター（JVC）と面談すると共に、徳永理事の協力を得て東京在住支援者との交流会を持った。

(4-2) アフガニスタン視察

レシャード理事長は 11 月 10 日から 22 日までの期間で、アフガニスタンを視察した。

12 日（水）	カブール市	日本大使館・JICA との意見交換、新カブール感染症病院を視察
13 日（木）	ナングラハール州	日本国際ボランティアセンターの現地診療所を視察
14 日（金）	ナングラハール州	ペシャワール会の活動地域を視察
15 日~20 日	カンダハール市	本会現地事務所及び診療所への指導と監督、ヘルス・ポストの視察と指導、アンサリ・メーナ地区の学校視察

ペシャワール会が建設したモスク（ナングラハール州）

本会カンダハール診療所での診察

② 事業名： 教育再建への支援事業

事業内容	概要	利用者数	費用(千円)
(1)学校支援	• カンダハール市と周辺地域における保健教育改善事業（仮称）案件形成 • ベースライン調査		事業費 －
(2)現地職員招聘	• ウィサ・レシャード 嘱託職員（滞在 7 月 4 日～8 月 11 日）		222（管理費 81 千円含む）

当該期間は、新規プロジェクト「カンダハール市とその周辺地域における保健教育改善事業（仮称）」の案件形成を中心に活動した。

(1) ベースライン調査

ベースライン調査では、ある指標を経年的に追跡調査し、その指標がどの様に変化したかを将来にわたって比較する。まず開始時（ベースライン）に、以後追跡する指標の調査を行い、その後経年的にそれを比べて行く。当該期間にアフガニスタン事務所の協力を得て、学校保健教育事業の基本指標となる、モデル校アンサリ・メーナ地区のハヤトラ・ハン小中学校の生徒数や教員数、ヘルス・ポストを通じて所轄する地域の住民数などを把握するベースライン調査を実施した。（別紙参照）

アンサリ・メーナ地区「ハヤトラ・ハン小中学校」（平成 26 年 11 月現在）

生徒			教員		
男子	女子	合計	男性	女性	合計
724	427	1,151	25	5	30
63%	37%	100%	83%	17%	100%

アンサリ・メーナ地区の就学率（平成 26 年 8 月現在）

	男子	女子	合計
アンサリ・メーナ地区子供数	1,508	1,693	3,201
通学児童（ハヤトラ・ハン小中学校 8 月現在）	637	344	981
アンサリ・メーナ地区就学率	42%	20%	31%

(2) 現地職員招聘

学校保健に係る基礎資料作成を目的に、ウィサ・レシャード嘱託現地職員（滞在 7 月 4 日～8 月 11 日）を日本に招聘した。静岡県教育委員会及び島田市教育委員会の協力を受け、静岡県教育委員会から講師を招いての個別講義と島田市内の学校で保健室視察を実施。7 月 31 日には島田市内で成果発表会を開催した。又、滞在期間中は島田市内でホームステイし、宿泊費を削減した。

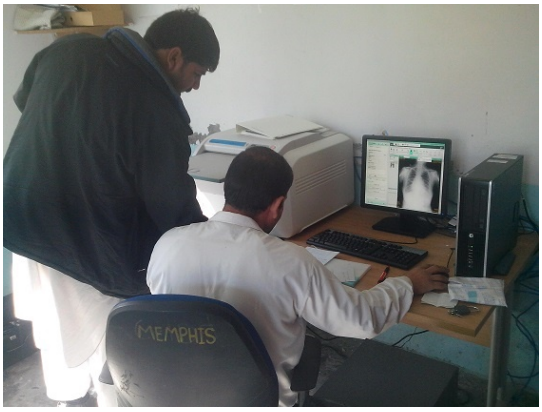
【助成金事業】

③　事業名：平成 25 年度草の根無償資金協力

事業内容	概要	利用者数	費用(千円)
助成金 （但し、平成 25 年度案件の為、過年度損益修正益に計上）	カンダハール診療所への医療機材及び装備の導入 品目：デジタル・レントゲン装置及びパソコン、地域医療巡回用車両、太陽光発電装置	ー	• 10,192

現地 NGO の登録を有しているアフガニスタン事務所は、平成 25 年度草の根無償資金協力案件として在アフガニスタン日本大使館から US$84,650 の無償資金協力を受け、平成 26 年度にこれを実施した。大使館よりアフガニスタン事務所への資金送金が行われた平成 26 年 4 月から、調達が完了した平成 27 年 1 月の間に急速に進行した円安により、円建て事業費は 10,191,860 円に膨らんだ。（費用増と同額を為替差益に計上）。

これらパソコンを備えたデジタル・レントゲン装置、地域医療巡回用車両及び太陽光発電装置は、アフガニスタン事務所が独立採算ではないことから、パソコンを除く 10 万円を超える装置 3 点を法人全体の固定資産に計上した。



デジタル・レントゲン装置

パソコン

巡回用車両

太陽光発電装置

【助成金事業】

④　事業名：一般財団法人日本国際協力システム JICSNGO 支援事業（新規）

事業内容	概要	利用者数	費用(千円)
助成金	一般財団法人日本国際協力システム JICSNGO 支援「ヘルス・ポストを通じた地域医療推進事業」	ー	1,938 (内、助成金 994 円)

新たに平成 26 年 8 月末に一般財団法人日本国際協力システム（JICS）の NGO 支援事業に対しヘルス・ポストを通じた地域医療推進案件を申請し 1 月に採択された。3 月より本事業を開始する。

事業名	ヘルス・ポストを通じた地域医療推進事業
実施期間	平成 27 年 3 月～平成 28 年 2 月
事業費	総額　1,937,968 円　（平成 26 年 8 月申請時） （内訳）　JICS 支援金　994,340 円 カレーズの会　943,628 円
背景	本会がヘルス・ポストを通じて地域医療推進に取り組む地域には 4,342 世帯、約 3 万人の人々が生活している。2013 年にヘルス・ポストで行われた治療件数は 6,662 件で、その多くが風邪や下痢などの感染症である。 2013 年ヘルス・ポストにおける症例 治療数：6,662（100%）／急性呼吸器疾患：2,334（35%）／下痢：2,381（36%）／尿路感染症：316（5%）／その他：1,631（24%） 「病気に負けない健康な体」を造るには地域住民、特に子供の栄養問題を改善する必要があるが、アフガニスタンの学校には給食がない。その為、子供の栄養状態の改善は母親などの保護者に委ねられている。ヘルス・ポストでは数年前よりボランティア地域保健員による公衆衛生教育を行っているため、その信頼関係を活かし、新たに栄養指導に取り組むことで、地域住民が「食の重要性」を認識し、子供達の栄養状態が改善されることを上位目標とする。
実施内容	(1)　ヘルス・ポストに対する物資供給：　月 1x12 ヘルス・ポストx12 ヶ月＝144 回 (2)　ボランティア地域保健員研修：　月 1x12 ヶ月＝12 回 (3)　ヘルス・ポスト巡回指導：　月 2x12 ヘルス・ポストx12 ヶ月＝288 回 (4)　ヘルス・ポストでの予防接種：　年 4x12 ヘルス・ポスト＝48 回 (5)　栄養士等を講師とする食育セミナー：　年 2 回 (6)　栄養指導資料の作成 (7)　ヘルス・ポストでの栄養指導：　月 1x6 ヶ月＝6 回
指標設定	①　栄養指導の為の資料が 1 種類以上開発される。 ②　栄養指導の参加人数：3,600 人以上（月 50 人x12 ヘルス・ポストx6 回） ③　コミュニティー・ヘルスワーカーの勉強会：12 回

【助成金事業】

⑤　事業名：外務省日本 NGO 連携無償資金協力

事業内容	概要	利用者数	費用(千円)
助成金	カンダハール市とその周辺地域における保健教育改善事業	－	－

全省庁統一資格（等級 D）を取得 8 月 19 日に取得。一方で、平成 26 年度に申請を計画していた「外務省日本 NGO 連携無償資金協力」は、平成 26 年度より対象となる NGO が“法人として 2 年以上にわたる国際協力活動の実績があること”と改正された。（25 年度までは“任意団体の期間も含め、団体として 2 年以上にわたる国際協力活動の実績があること”であった。）この改正により、平成 25 年 10 月 4 日に法人として成立した本会は、平成 26 年度の対象 NGO から除外された為、今年度中の申請を断念した。

⑥ 事業名：アフガニスタン復興に必要な助言と提言事業

事業内容	概要
他団体との連携	(1) 来日したアフガニスタン事務所長及び本部事務局職員が日本国際ボランティアセンターを意見交換の為に訪問（6 月 6 日） (2) 同じ日本国際ボランティアセンターのアフガニスタン人職員他が島田市のレシャード理事長を訪問（6 月 23 日） (3) 故ラジ・サタル氏を偲ぶ会出席の為に、大阪市の一般財団法人アジア図書館・アジアセンターの代表者が来静。（8 月 10 日） (4) 故伊藤和也氏の 7 回忌に合わせ、ペシャワール会中村哲代表が来静。小野田副理事長と交流。 (5) 徳永理事及び本部事務局職員が国際協力機構（JICA）を訪問し、客員専門員及び南アジア部南アジア第二課長と意見交換（9 月 5 日） (6) 本部事務局職員が認定 NPO 法人ジャパン・プラットフォームを情報収集の為に訪問（9 月 5 日） (7) アフガニスタン支援 NGO 団体が連携する「忘れないでアフガニスタン」キャンペーン（11 月 24 日）に参加
アフガン CSO との連携	「忘れないでアフガニスタン」キャンペーンへの参加協力

(1) 他団体との連携

(1-1) 認定 NPO 法人日本国際ボランティアセンター（JVC）との交流

(ア) 先方事務所への訪問や来日したアフガニスタン人職員の島田市内での受け入れを実施した（6 月 6 日及び 23 日）。

(イ) レシャード理事長が同団体のアフガニスタン事務所と診療所を視察。現地職員、現地医師、長老たちと意見交換をした。(11 月 13 日)

(ウ) アフガニスタン・ジャララバードでの同団体への活動視察についてレシャード理事長より報告が出されると共に、本部職員との情報交換を実施。(12 月 11 日)

(1-2) 特定非営利活動法人ペシャワール会との交流

アフガニスタンで亡くなった故伊藤和也氏の 7 回忌に合わせ、NPO 法人ペシャワール会代表者と小野田副理事長が面談。(8 月 JVC と同様にレシャード理事長がナングラハール州の同会活動地を訪問。灌漑施設や農地、果樹園、ペシャワール会が建てたモスク、伊藤和也菜の花基金により建てられた学校や寮を視察した。(11 月 14 日)

(1-3) 一般財団法人アジア図書館・アジアセンターとの交流

8 月 10 日に開催された「故ラジ・サタル氏を偲ぶ会」に、長年ラジ氏と交流があったアジア図書館・アジアセンター代表が出席された。ラジさんのお人柄や、大阪でのご活躍について、写真を交えてご紹介された。

(1-4) 「忘れないでアフガニスタン」キャンペーン

12 月にロンドンで主要支援国によるアフガニスタン・ロンドン会合が開催される事に係りアフアガニスタン CSO の ACBAR(Agency Coordinating Body for Afghan Relief & Development)が「忘れないでアフガニスタン」キャンペーンを呼びかた。これに応えて日本の NGO による実行委員会が立ち上げられ、本会も参加した。同キャンペーンではアフガニスタン映画の上映とシンポジウムを開催し、アフガニスタン視察を終了し帰国したばかりのレシャード理事長もシンポジストとして登壇した。

「忘れないでアフガニスタン」キャンペーン (11 月 24 日 築地本願寺)

⑦ 事業名： その他目的を達成するための事業（アフガニスタンへの理解を深める活動）

事業内容	概要
自主広報事業	日本国際保健医療学会(JAIH)学術大会でブース展示（11 月 2 日・3 日）
主催講演会他	(1) アフガニスタン事務所長現地報告会（5 月 25 日、29 日、31 日) (2) アフガニスタン写真展 in 浜松（12 月 8 日~14 日） (3) アフガニスタン視察報告会（12 月 14 日、17 日）
招待	(1) 総理主催「桜を見る会」（4 月 12 日） (2) コンラート・アデナウアー財団主催シンポジウム「アフガニスタンーこれまでの教訓とこれからの道のり」（9 月 24 日）
メディアによる報道	(1) 東京 FM クロノス 「追跡」 ラジオ出演（5 月 8 日） (2) 静岡新聞 現地報告会記事（5 月 25 日） (3) 中日新聞 集団的自衛権に係る理事長インタビュー記事（6 月 29 日） (4) 朝日新聞 集団的自衛権に係る理事長インタビュー記事（7 月 2 日・3 日） (5) 婦人民主新聞ふぇみん 電話インタビュー（8 月 15 日） (6) 産経新聞 My Life 前を向いて（8 月 18 日） (7) ジャパンタイムス記事（8 月 26 日） (8) 日本経済新聞記事（10 月 4 日） (9) 日本文化厚生農業協同組合連合会 「文化連情報」 レシャード理事長インタビュー（10 月号） (10) 中日新聞 アフガニスタン写真展告知（12 月 5 日） (11) 中日新聞 アフガニスタン写真展記事（12 月 9 日） (12) 中日新聞 アフガニスタン写真展トークセッション記事（12 月 15 日） (13) NHK 静岡 アフガニスタン視察報告会（12 月 18 日） (14) 静岡新聞 アフガニスタン視察報告会記事（12 月 18 日） (15) 読売新聞 アフガニスタン視察報告会記事（12 月 19 日） (16) NHK Eテレ こころの時代「国境なき針と糸」(再放送)（2 月 1 日・7 日） (17) NHK ラジオ深夜便 レシャード理事長インタビュー（2 月 24 日）
JANIC「地域の『縁』とNGOにおけるファンドレイジング」	(1) 全体共有会（4 月 17 日） (2) 事例紹介 彩の国国際交流・協力団体ネットワーク（6 月 5 日） (3) 事例紹介 北海道 NGO ネットワーク（1 月 25 日）
その他	故ラジ・サタル氏を偲ぶ会（8 月 10 日）

(1) アフガニスタン写真展

カレーズの会静岡県西部支部は、写真家内堀タケシ氏の協力を得て、アフガニスタン写真展を浜松で開催した（12 月 8 日~14 日）。 この写真展には、写真の搬入出や設営、日毎の会場係など、多くのボランティアが協力して下さった。最終日となる 12 月 14 日には 11 月にアフガニスタンを視察したレシャード理事長のアフガニスタン視察報告会や、写真家内堀タケシ氏とのトークセッションを行った。

(2) アフガニスタン事務所長現地報告会

定期総会に合わせ来日したシェルシャー・レシャード事務所長による現地報告会を静岡（5 月 25 日）、浜松（5 月 29 日）、大阪（5 月 31 日）の 3 箇所で開催した。大阪では 6 月にご逝去されたラジ理事がアジア図書館・アジアセンターとの協力にご尽力下さった。

5 月 29 日（浜松）

5 月 31 日（大阪）

(3) アフガニスタン視察報告会

11 月にアフガニスタンを訪問したレシャード理事長のアフガニスタン視察報告会を浜松（12 月 14 日）、静岡（12 月 17 日）で開催した。アフガニスタン写真展の会場には多くの参加者が来場され、熱心に報告を聞かれていた。一方、平日の夕方に開催した静岡では、静岡市の報道関係 3 社（NHK 静岡放送局、静岡新聞、読売新聞）による取材を受け、テレビや新聞で大きく報道された。

12 月 14 日（浜松）

12 月 14 日（浜松）

(4) 故ラジ・サタル氏を偲ぶ会

8 月 10 日に行われた故ラジ・サタル氏を偲ぶ会には、駐日アフガニスタン大使館よりカリム二等書記官も大使名代としてご出席され、大使よりのお悔やみのお言葉を代読された。

(5) 「地域の『縁』と NGO におけるファンドレイジング」プロジェクト

平成 24 年度から参加している（特活）国際協力 NGO センターの「地域の『縁』と NGO におけるファンドレイジング」プロジェクトは、最終年度となる 3 年目を迎え、本部事務局職員が共有会に参加し、本会のファンドレイズの取り組みを事例紹介として発表した。又、2 月には助成成果評価に係るヒアリング調査が実施され、日本ファンドレイジング協会公認准認定ファンドレイザーでもある評価者と面談した。

3. 本法人の運営を充実させるための取り組み

当該期間において、次のような法人の運営を充実させるための活動に取り組んだ。

事業内容	概要
(1)会員増強活動	会員口数　合計 392 口（個人 336、団体 16、賛助 37、学生 3）
(2)自主財源強化活動	(2-1) マンスリーサポーター(4 月下旬導入) (2-2) 夏の募金(7 月～9 月 15 日) (2-3) 年末年始特別募金(12 月~2 月) (2-3) 書き損じ葉書リサイクル支援の推進(随時) (2-4) ダイドードリンコ株式会社「1 本のジュース」募金活動の推進(随時) (2-5) 募金箱設置による募金活動(随時)
(3)組織運営	(3-1) 理事会(第 1 回 5 月 25 日、第 2 回 10 月 19 日、書面表決 2 月 20 日) (3-2) 資産の変更登記（6 月 2 日） (3-3) 前年度の事業報告書等の提出(6 月 25 日) (3-4) 役員の変更等届出書の提出（6 月 25 日）※ラジ理事ご逝去による変更 (3-5) 全省庁統一資格の取得（8 月 19 日） (3-6) 中期事業計画（平成 26 年～平成 30 年）の策定（10 月 19 日） (3-7) レシャード　カレッド理事長への月例報告(毎月 1 回)
(4)広報活動	(4-1) 会報の発行(4 月・7 月・12 月・3 月) (4-2) ウェブサイトの更新(随時) (4-3) メディアに対する報道のお願い（4 回）
(5)講演会活動	17 回

(1)会員増強活動

(1-1) 会員及び会員口数について

平成 26 年度の会員状況は次の通りである。

会員及び年会費 (平成 26 年 4 月~平成 27 年 3 月)

	年	個人	団体	賛助	学生	合計
会員数	**平成 26 年度**	**288**	**16**	**27**	**3**	**334**
会費振込件数	平成 25 年度	390	23	34	4	451
	平成 26 年度	**290**	**16**	**28**	**3**	**337**
会員口数	平成 25 年度	478	26	46	4	554
	平成 26 年度	**348**	**16**	**39**	**3**	**406**
前年度比（口数）		-130	-10	-7	-1	-148
対予算目標		-152	-14	-7	-1	-174

(2) 自主財源強化活動

(2-1) マンスリーサポーター

4 月 9 日に決済代行会社 株式会社 J-Payment（10 月に株式会社 Cloud Payment に社名変更）とクレジットカード及び口座振替決済に係る契約を取り交わし、カレーズの会ウェブサイト上の入力画面設定等が完了した 4 月 25 日よりマンスリーサポーターの登録を開始した。平成 27 年 3 月末現在の登録者は 36 人、91 口である。

マンスリーサポーターによるご寄付 （円）

上半期	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
寄付金額	0	0	28,000	41,120	13,120	76,120	585,080
下半期	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
寄付金額	57,120	25,120	57,120	57,120	60,120	170,120	

(2-2) 夏の募金

7 月から 9 月 15 日の期間で夏の募金を実施した。募金は 167 件、総額で 1,459,780 円であった。

(2-3) 年末年始特別募金

例年と同様に 12 月から 2 月の期間で年末年始特別募金を実施し、230 件、総額は 2,297,474 円であった。この募金では、静岡県保険医協会の協力を得て、同協会員へ広報用チラシを配布することが出来た。

(2-4) 書き損じ葉書の提供及び未使用切手の寄付

当該期間における書き損じ葉書の提供は 28 件で 7,640 枚。未使用切手の物品寄付は 14 件で 50,884 円あった。書き損じ葉書は切手に交換し、「貯蔵品」として 422,403 円を計上した。

(2-5) ジュースの自動販売機による自主財源づくり

ダイドードリンコ株式会社の「1 本のジュース」事業による寄付金は総額 141,261 円となった。

ダイドートリンコ株式会社 「1 本のジュース」事業 （円）

上半期	4 月分	5 月分	6 月分	7 月分	8 月分	9 月分	合計
寄付金額	10,776	11,970	12,305	13,380	18,929	16,665	141,261
下半期	10 月分	11 月分	12 月分	1 月分	2 月分		
寄付金額	12,330	10,786	10,035	10,532	13,553		

(2-6) 募金箱設置による募金活動

当該期間の募金件数は 15 件、合計 225,744 円となった。尚、2 月に静岡市の安東耳鼻咽喉科医院より募金箱設置終了の申込みがあり、最後の募金と共に募金箱を回収した。

(3) 組織運営

(3-1) 第 1 回理事会(5 月 25 日)

第 1 号議案 平成 25 年度事業報告案について

第 2 号議案 平成 25 年度活動計算案について

第 3 号議案 平成 26 年度事業計画案について

第 4 号議案 平成 26 年度活動予算案について

(3-2) 第 2 回理事会(10 月 19 日)

第 1 号議案 平成 26 年度上半期事業報告案について

第 2 号議案 長期事業計画案 (平成 26 年から平成 30 年まで) について

第 3 号議案 平成 26 年度下半期事業計画案について

第 4 号議案 平成 26 年度通期活動予算について

第 5 号議案 本部事務局規程 (就業規則・旅費規程・給与規程) の承認について

(3-3) 理事会書面表決(2 月 20 日)

第 1 号議案 平成 25 年度草の根無償資金協力の平成 25 年度経常収益(受取助成金)計上と、それに係る平成 25 年度活動計算書及び平成 26 年度活動予算書の訂正について

第 2 号議案 平成 26 年度特別会計よりの繰入金の追加について

(3-4) 第 3 回理事会 (3 月 15 日)

第 1 号議案 平成 26 年度事業報告及び活動計算案について

第 2 号議案 平成 26 年度事業計画及び活動予算案について

第 3 号議案 平成 27 年度・平成 28 年度役員について

(3-5) 中期事業計画(平成 26 年～平成 30 年)の策定(10 月 19 日)

	事業名	期間
①	カレーズの会カンダハール診療所機材改善事業(草の根無償)	平成 26 年 3 月~12 月
②	ヘルス・ポストを通じた地域医療推進事業(JICS)	平成 27 年 3 月~28 年 2 月
③	カンダハール市と周辺地域における保健教育改善事業(外務省)	申請準備中

(3-6) レシャード カレッド理事長への月例報告

当該期間で 5 回の月例報告を実施。

(4) 広報活動

(4-1) 会報の発行

当該期間で、会報第 45 号・46 号・47 号・48 号を発行した。

(4-2) ウェブサイトの更新

随時ウェブサイトを更新した。

(4-3) メディアに対する「報道のお願い」

当該期間に3件の報道のお願いを、静岡県庁社会部記者クラブを始め、新聞・テレビの浜松支局に投げ込んだ。

(ア) アフガニスタン事務所長　現地報告会（5 月 25 日）
(イ) アフガニスタン現地職員（嘱託）の成果発表会（7 月 31 日）
(ウ) アフガニスタン写真展及びアフガニスタン視察報告会 in 浜松（12 月 14 日）
(エ) アフガニスタン視察報告会 in 静岡（12 月 17 日）

(5) 講演会活動

レシャード　カレッド理事長は、当該期間において下記の講演を実施した。

(ア) ノバルティスファーマ株式会社（6 月 3 日）
(イ) グラクソ・スミスクライン株式会社（7 月 18 日）
(ウ) ヨハネ 23 世の「地上の平和」勉強会（8 月 10 日）
(エ) 杏林製薬株式会社（8 月 24 日）
(オ) 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社（9 月 10 日）
(カ) 第 55 回日本熱帯医学会大会・第 29 回日本国際保健医療学会学術大会合同大会（11 月 1 日~3 日）
(キ) 「忘れないでアフガニスタン」キャンペーン（11 月 24 日）
(ク) ノバルティスファーマ株式会社（12 月 2 日）
(ケ) 静岡県介護福祉士会（12 月 7 日）
(コ) 新英語教育研究会　静岡県支部（1 月 11 日）
(サ) 日本女子大学附属中学校（1 月 15 日）
(シ) 静岡県立島田商業高等学校定時制（1 月 20 日）
(ス) 静岡県保険医協会（1 月 21 日）
(セ) JICA 北海道（1 月 29 日）
(ソ) 静岡市立清水病院学術委員会（2 月 6 日）
(タ) 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社（2 月 18 日）
(チ) 外務省国際ワークショップ（2 月 25 日）